



姫野ゼミ

Report!

長大生のまちおこし



荒れ地に花を咲かせまSHOW♪



7月初め。根太い雑草と格闘。



雑草に覆われた再開墾前の現地。



9月中旬、開花の時期を迎え、花見を楽しんだゼミのメンバーと地元の方々。種の収穫は、1カ月後、地元の小学生たちと行う予定。

「環境共生社会」をテーマに、ユニークな活動をはじめました！
環境科学部の姫野教授ひきいるゼミが



いつもお世話になっているご近所のゲンさん(左)に、相談中の姫野教授。

「雪浦地区の地元住民は長年、地域の環境を活かしたまちづくりに取り組んできて、私たちのゼミも以前からその活動に学ぶなど、交流がありました。その中で今回の企画が生まれたのです」と姫野順一教授。活動資金として、『長崎県学生さんのまちおこし』地域づくり事業の補助金を得て、この7月、本格的に活動をスタートさせました。

ゼミ生たちは慣れない農機具を持って、2500平方メートル(約25m×約100m)の畑を再開墾。まいた種はスクスクと育ち、この秋には種の収穫、そして油搾りが計画されています。

「ヒマワリの油は食用に適した良質なもの。石鹸、ろうそく、焼酎など、新しいブランド商品も作れないか思案中です」と姫野教授。また、「まちおこしは時間がかかります。私たちの活動はあくまでも通過点。試行錯誤しながら長期に関わっていきたいです」と話しています。



7月下旬、間引きと補植。作業がきつくなると誰かが歌い出す。力が湧くから不思議。



7月中旬、種まき。地元の方も手伝ってくれた。「芽が出ますように。鳥に食べられませんように。」



畝模様も美しく、すっきり整えられた畑。緑豊かな周囲の風景に溶け込んでいる。



畝立て機に初チャレンジ。「けっこう重いし、むずかしい」。農業のたいへんさを痛感。